

自然体験イベント事故情報

事故名	マダニに咬まれる	被災者	年齢 70歳台	性別 男性
事故状況	発生日時 平成28年5月15日（日）午前9時～午後2時半頃の間			
	発生場所 里山			
	事故状況（何をして、どのように、どうなった） 5月15日、実習地の下草刈りや片付けなどの雑用を行った。このときにマダニにとりつかれたようで、入浴したが気づけなかった。夜間痒みを感じていたが気にしなかった。			
事故処置	誰が、どのように処置 18日夜マダニにかまれていることを発見。薬剤で殺した。19日皮膚科に行って切除、縫合治療などの処置をしてもらった。1～2週間注意するように言われた。22日傷口消毒 25日傷口の抜糸を行った。			
	ケガの部位・症状 部位は、右手人差し指と中指の又部、見つけたときはゴマの種のように。4日で成長したようです。			
	推定原因と再発防止策は（分かる範囲で記入下さい） 手袋をしない時間があった。 皮膚の露出防止、虫よけ薬の使用。作業後の払い落としと点検などを参加者全員に徹底する。狭い範囲なら事前に殺虫剤の散布を考える事も必要。 マダニの危険性と注意や対策を徹底する。 ウイルス感染がなかったが、深刻な事態もあることを知らせる。			
総務部コメント	<ol style="list-style-type: none"> 皮膚の露出を避けること ダニ類が活発に活動する春から秋にかけて山林・草地へ立ち入る際には、帽子、長袖、長ズボン、絞り口つき長靴（またはスパッツ）等を着用する。 ダニ類がついていないか、よく点検をすること 作業後の衣服への払落し。帰宅後必ず入浴し、ダニ類が体表についていないか、よく点検をすること 皮膚科を受診すること もしマダニがついていた場合は、素人では容易に抜けないため皮膚科で取ってもらうこと。山林・草地へ立ち入り、1～2週間してから体調が悪い場合、発熱等の症状が出た場合には、重症化するウイルス感染症の疑いもあるため、念のため皮膚科を受診すること。 <p style="text-align: right;">都市と自然 2014年5月号「ダニと病気」より引用する</p>			